

---

# 魔法戦記リリカルなのは Root of poison of the world

ソルソラ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法戦記リリカルなのは Root of poison of  
the world

### 【Nコード】

N0664S

### 【作者名】

ソルソラ

### 【あらすじ】

「古代遺物管理部 機動六課」が新設され、そこに一人の男が配属される。この物語の主人公である「アウル・ルートレイン」 彼にはある「秘密」があり・・・

## **P r o l o g u e (前書き)**

初めての二次創作です。この作品は原作に沿っていきますが改変もありますので、苦手な方はご注意ください。

## Prologue

ある一人の人間は世界に絶望しながら生きていた。

自分の意思や感情を持つ前からその人間の世界は、怒り・憎しみ・孤独・悲しみなどの負の感情しかなくそれが当たり前だと認識する頃に次第に生きている意味もわからなくなっていた。

なぜ？自分は生きているのか・・・なぜ？こんな世界があるのだろうか・・・

そして、ある日一冊の本に導かれ毒に染まった人間は世界を殺す力を手に入れた。

これが世界の毒となる根源の物語の始まりである。

## P r o l o g u e ? (前書き)

この作品は戦記となっておりますが基本は「Strikers」になります。

## Prologue?

「準備はこんなもんでいいか・・・」

先日、書類での配属手続きを終えその際に渡された新しい制服・・・機動六課の制服に着替え、鏡で自分の髪と服装を確認し荷物の整理をしていた俺　　アウル・ルートレインはまとめ終わった荷物を持って自分の部屋を出て、誰かしらいるだろうと予想をつけて管制室に向かった。

今まで俺が住んでいたのは飛空艇の居住ブロックで、ここには200人程度が楽に生活できるスペースがある。しかし、そのほとんどが倉庫として使われているあたり俺等らしい・・・とそんな事を考えながら歩いていると通路の先に身内の一人の後ろ姿が見えた。

ファミリー

「おいアル！こんなところで何やってんだ？」

うろつろ何かを探している感じだったので声をかけると、こっちの方を向き俺の姿を見ると一瞬殺気を出して警戒するがすぐに俺だとわかると今度は呆けた顔をして近づいてきた。

「オイオイ・・・なんの冗談だアウル兄。いくら何でもそいつはちょっと笑えねえぞ」

アルは俺の格好に嫌悪感があるのか説明しろとも言うような声を出した。

この口が悪いのはアルナージ。俺達は愛称でアルと呼んでいる。髪は長く腰までありボサボサでその頭の上にはトレードマークであ

るゴーグルがつけてある。ちなみに男勝りな性格ではあるが女である

「お前・・・覚えてないのか？前に管理局の新設された部隊、機動六課に俺は『仕事』をしにいく事に決まったって言っただろ？」

「そういえばそんなこと言ってたな・・・オーライ、あたしはアウル兄にそんな格好してほしくねえが仕事なら仕方ねえ」

納得したそうだったので管制室に向かって歩きだすと、アルも俺の横に並んで歩きだした。

管制室に着くと中にいた二人が俺達に気づいて俺を見ると少し驚いていたが、一人が俺のところまで走って来て腰のあたりに抱きつくともう一人も笑顔で手をあげた。

「よしよし・・・ステラ、操縦お疲れ。フォルティスも今回の件よくやってくれた」

「~~~~？」

「いえいえ、アウルさんのこれから比べたら僕の仕事なんて簡単なもんですよ」

管制室にいたのは二人。今、俺の腰に抱きついてる小さい少女

はステラ・アーバイン。この飛空艇の操舵手でファミリー最年少である。そして、もう一人のいつも笑顔を絶やさないような青年は俺達の参謀であるフォルティス。今回、俺が機動六課に配属できるように動いてもらった

「つーかそれだよそれ！本当に今回の仕事やる意味あんの？わざわざクソな管理局のところにアウル兄が行くとか！」

フォルティスの言葉を聞いて、一度は納得したがどうにも許せないらしくアルから愚痴がでる。

「……まあ、仕事って言っても今回ののはほとんど俺個人の判断だからな。機動六課はもちろん、フォルティスからの情報だと地上本部の方も最近いろいろ動いているらしいから。なんであれ、俺達には管理局なんて問題にもならないが一応な……だからそんな顔するな」

言い終わってアルの頭をなでてやると今度は諦めがついたのかため息をついた。

『それじゃあそろそろミッドチルダ近隣世界だしここで俺は降りる。本拠地はお前らに任せたぞ』

念話で三人に話しながら排出用ゲートに荷物を持ってきて地上に降りる準備をすませる。



『アウルさんなら心配はいらないと思いますが・・・管理局でのあなたのデータはデバイスに送っておきました。しっかり目を通して覚えてくださいね』

『了解。後、今日いなかった他のメンバーにもよろしく言うておいてくれ』

『任しとけ！ヴェイ兄とビル兄、サイ姉とそれにカレン姉にも必ず伝えてやる！』

『カレンにもか・・・・・・まあ、いい。ステラ！ゲートからの排出を頼む』

『うん！いつてらっしゃいお兄ちゃん！』

『ああ。いつてきます』

排出用ゲートからアウルが出るのを操舵室で見送った三人は声を揃えて言った。

「「「いつてらっしゃい。凶鳥の鳥籠」」」  
フッケバインヴォーゲルバウアー

## **P r o l o g u e ? (後書き)**

次回からはS t sに入ります。

## 機動六課（前書き）

キャラクターの口調が難しいです……………

それに文章が安定してません……………実力がなく申し訳ない

## 機動六課

時空管理局 遺失物対策部隊 機動六課隊舎

その部隊長オフィスにこの隊の課長・本部隊舎総部隊長・中枢司令部（後方支援部隊）「ロングアーチ」のトップである八神はやて二等陸佐がなにやら難しい顔をしながらデスクにある資料を確認していた。

「はやてちゃん、どうかしたんですか？」

そう声をかけてはやての肩に乗ったリイン。

彼女は部隊の隊長陣の補佐官でありながら、はやてのユニゾンデバイスの管制人格で名称はリインフォース？（ツヴァイ）。階級は空曹長、体長が30cm程なので隊員からは『ちっちゃい上司』などと呼ばれているとかいないとか・・・

「うーん…別に気にする事やないと思うんやけどね」

大丈夫と笑いかけながら手元の資料をリインに見せた。

「これは今日配属されてくる隊員さんのデータですか？どこかおかしいところもあったですか？」

「いや、変なことかはないんやけど…どっかで見たことあるような」

記憶の淵でチラチラと出てくるように出てこない不快な感じが少し

続いたが、はやては実際に会えばわかるだろうと強引に考えを断って資料の確認を再開し始めるとロングアーチの隊員から通信がはいった…

「ここが機動六課の隊舎…結構広いな」

そんなことを呟きながら、俺は今隊長室に案内されていた。隊舎に着いてから適当に目がついた隊員に自分の名前と階級を言い隊長室の案内を頼むと、少しの間どこかと通信するとすぐに隊長室まで案内してくれた。

隊長室に着いたらしく、ここまで案内してくれた隊員に礼を言っただけで中に入った。

「失礼します。本日より機動六課に着任することになった、アウル・ルートレイン空曹長です」

「うん、これからよろしゅうな。私が部隊長の八神はやて二等陸佐や。それでこつちが…」

「リインフォース？（ツヴァイ）空曹長です。よろしくですよ！」

……………これが管理局でも数少ないSSランクの魔導師か……………  
敬礼しながら八神はやて二等陸佐を見ていると、視線に気づいたのか手を下ろしてイスに座った。

「それじゃあ他の隊長陣は今フォワードのメンバーの訓練をしてるから、アウル曹長はそっちの方に挨拶に行ってもらってええか？リインもアウル曹長の案内たのむわ」

「了解しました（です）」

簡単に挨拶を済ませ、隊長室を出てふわふわと飛んでいるリイン曹長について屋外までいくと前方にモニターを出して操作している眼鏡をかけた少女と、教導隊制服を着ている少女が見えた。

「なのはさ〜ん！シャーリー！」

「リイン！こんなところまでどうしたの？それに……その人は？」

「初めまして。今日から機動六課に配属されたアウル・ルートレイン空曹長です。よろしくお願いします」

「あなたがはやてちゃんが言ってた……私は、スターズ分隊隊長の高町なのは一等空尉です。そしてこちらにいるのが……」

「シャリオ・フィニー一等陸士です。機動六課通信主任兼メカニックデザイナーで、みんなからはシャーリーって呼ばれているのでよければそう呼んでください！」

互いの自己紹介が終わって辺りを見回すと気になるものを見つけた。

「あれは………？」

「ああ！あれはですね、機動六課自慢の陸戦用シュミレーターの訓練スペースなんですよ！新人のフォワードチームが今もあそこで訓練してるんですよ！」

少し興奮しながら説明するシャーリーに苦笑していると……

「そういえば…アウルさんって機動六課のどの部隊に所属するんですか？はやてちゃんからは、前の部署では本局の武装隊にいたって話でしたけど…やっぱり前線ですか？」

そう高町一尉に尋ねられ、そういえばまだ挨拶をしただけで詳しい事を決められてなかったと少し困っていると後ろから声が聞こえてきた。

「よかった。まだここにいてくれたんやね」

「……八神隊長、はやて（ちゃん）（さん）」「……」

「アウル曹長の所属する部隊について伝えよう思ってた……」

「ちょうどラインたちもそのことについて話してたんですよ」

ライン曹長が八神隊長のそばに行くのを見ながら俺は、なんで通信を使わずにわざわざここまで来たのだろうと……若干嫌な予感があった。

「それでな、実は部隊を決める前にやってもらいたい事があるんやけど……」

そう言った八神隊長の顔はかなりいい笑顔をしていた。その意味がわかったのか高町一尉とシャーリーは少しひきつった笑みを浮かべて、リン曹長は首を傾げて、俺はめんどくさい事になるな…と予感が確信に変わり次の言葉を待った。

「アウル曹長には今から訓練シュミレーターで模擬戦をしてもらいます」



機動六課（後書き）

オリジナルキャラ    P R O F I L E    ? 1

アウル・ルートレイン（管理局データ）

性別 / 男

年齢 / 22歳

出身世界 / 不明

階級 / 空曹長

魔導師ランク / 空戦 A +

魔法術式 / 古代ベルカ式 + ミッド式（一部）

魔力光 / 黒

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0664s/>

---

魔法戦記リリカルなのは Root of poison of the world

2011年10月8日16時10分発行